

意気



やっさもっさ

誇想力

2006年2月25日 Vol.332

# 育てよう「意気な三原っ子」

## 今、何が必要とされているのか！ 三原の現状、そしてこれからの共育環境とは！



(社)三原青年会議所では、「家庭」「学校」「地域」の連携した共育環境を目指し活動して参りました。昨年は地域の一人でもある「おやじの会」に着目し、意見交換会を開催してお互いの活動報告を行いました。本年度は新三原市の学校に1校でも多くの「おやじの会」が設立され、更なる発展を目指して活動してゆきたいと考えております。

そこで、現在の三原における教育環境の現状と課題、また、実際に「おやじの会」を設立されて活動をされている方のお話を聞き、今後の活動に活かしてゆくために、三原市教育長 植木 章弘様と三原小学校「おやじの会」代表 藤本 孝幸様をお招きし、(社)三原青年会議所 理事長 田尾敏範との対談を行いました。

### みたがきいたが

ここ数ヶ月の間、一連の耐震強度偽装事件に始まり、ライブドアの証券取引法違反、更には東横インの建築基準法違反といった巷を揺るがすような事件が相次いでいる。そのたびに、経営者が弁明をしている場面が各メディアで取り沙汰されているが、その発言が余りにも社会のモラルを無視した金儲け主義で

あり、無責任で薄っぺらく、耳にするたびに怒りさえ感じるのは私だけだろうか。

日本には古くから「言霊(ことだま)」という言葉がある。これは声に出した言葉が現実の事象に対して何らかの影響を与えると信じられ、物事を人に伝えたい時、口で語れば耳にしか伝わらないが、自らが腹を据え、魂をこめて語れば相手の腑(きも)に落ちるといふことである。

企業の社会的(CSR:Corporate Social Responsibility)が問われるこの時代、経営者が道徳心溢れる信念を持ち、お客様や社員に対して思いやりの心を持って経営を行うことが最も重要なことは言うまでもない。経営者は自らの志を「言霊」持って語る時、ビジョンや方針は初めて組織に浸透し、そして、継承することでそれが会社の理念となり、更には文化となり得るのではないだ

ろうか。

最近のITの発達によってメール等でのやり取りが主流となり、直接お客様や社員と語る機会が減ってしまい死語になりつつあるこの「言霊」ではあるが、今一度この「言霊」を再認識してお客様や社員に接する必要があるのではないだろうか。我々も青年経済人として「言霊」を持ち、自らの発言には確固とした責任を持って行動してゆきたい。